

眼 科



診療科動画



診療科 HP



1. スタッフ

診療科長（教授）井上 俊洋 いのうえ としひろ
准教授 1 名、
講師 2 名、助教 4 名、
特任助教 1 名
医員 10 名

2. 診療科の特徴、診療内容

当科では眼に関する疾患全般を扱っている。特に高度の手術技量と先進設備を必要とする失明性眼疾患である緑内障、糖尿病網膜症、網膜剥離、加齢黄斑変性などの治療に積極的に取り組んでいる。本院眼科では、2023 年度の一年間で 1,712 件の手術を行い、特徴は網膜硝子体手術や緑内障手術の頻度が高いことが挙げられ、白内障手術との同時手術も多数施行されている。

また、最新治療への取り組みとして、小侵襲緑内障手術、小切開硝子体手術や加齢黄斑変性に対する抗 VEGF 療法・光線力学療法を早期から導入し、また、新しい薬物療法の開発も行ってきた。

診断面では、最新の光干渉網膜断層計 (OCT)、前眼部 OCT、デジタル広角眼底撮影装置などの画像診断装置を揃え、専門外来として、網膜外来、糖尿病網膜症外来、緑内障外来、ぶどう膜炎外来、神経眼科外来、斜視弱視・小児眼科外来などを設けており、専門医による最新の医療を提供している。

また、当科の方針として、積極的な地域連携を心がけており、かかりつけ医の先生方と緊密な連携により、安心いただける医療体制を構築したいと考えている。

3. 診療体制

○外来診療体制

外来診療は初診を月、火、木曜日に行っており、再診は各専門外来にて、全て予約制で行っている。初診、専門外来担当医師は下記の通り。

＜初診担当医＞

(月) 井上 小島
(火) 高橋 芳賀
(木) 筒井 瀧原 福島

＜専門外来＞

(網膜：月) 芳賀 福島 松村
(糖尿病：火) 筒井
(緑内障、神経眼科：木) 井上 高橋 瀧原 小島
(ぶどう膜炎：木) 高橋 松村
(小児：金) 福島

○病棟診療体制

月曜日：入院患者診察、手術
火曜日：入院患者診察、教授回診
手術症例カンファレンス
水曜日：入院患者診察、手術
木曜日：入院患者診察、教授回診、
手術症例カンファレンス、症例検討会
金曜日：入院患者診察、手術
土・日曜日：入院患者診察

4. 診療実績

○外来および入院患者数

外来患者数：16,193 人
初診：1,793 人 再診：14,400 人
入院患者数：1,413 人

○主要な疾患の治療実績（成績）

網膜・硝子体手術、緑内障手術を中心に、白内障・眼内レンズ手術、斜視手術など、年間 1,506 件の外科的治療を行っており、特に網膜・硝子体手術と緑内障手術件数の多いこと、また外傷など緊急に手術を要する症例が多いことが特徴である。

また、伝統的に当科を代表する専門外来として全国に名を知られる緑内障外来では、各地より難治症例の紹介を受け、その治療にあたっている。

さらに、新たな治療にも積極的に取り組んでおり、小切開白内障手術、小切開硝子体手術、各種低侵襲緑内障手術、緑内障チューブシャント手術、加齢黄斑変性および網膜静脈閉塞症や糖尿病網膜症などによる黄斑浮腫に対する抗 VEGF 療法などの治療を早期より導入し、難治症例の治療に役立てている。また、OCT 手術顕微鏡 RESCAN が手術室に導入されており、手術中に顕微鏡に内蔵された光干渉断層計で、リアルタイムに前眼部から後眼部まで断層写真を見ることができ、よりの確な手術のサポートをしている。

○手術の件数等

網膜硝子体手術、緑内障手術、白内障手術など
計 1,712 件

○検査の実績等

眼科一般検査に必要な器機（細隙灯顕微鏡 14 台、視力検査表 6 台、オートレフラクトメーター、IOL マスター、非接触型眼圧測定、Goldmann 視野計 1 台、Humphrey 視野計 3 台、フリッカー値測定器、スペキュラーマイクロスコープ、超音波生体顕微鏡、超音波式眼軸長測定装置、光学式眼軸長測定装置、眼底撮影装置）の他に、各専門外来に対応すべく OCT 3 台、前眼部 OCT 1 台、多極所 ERG、フルオレセイン・インドシアニンググリーン蛍光眼底デジタル撮影装置、広角眼底撮影装置、レーザーフレアメーターなど最先端の医療器機を用いて高度な先進医療を行っている。また、網膜光凝固レーザー、YAG レーザー、マルチカラーキャンレーザー、SLT レーザー、マイクロパルスレーザー、眼科用 PDT レーザー、といった治療機器が設置されており、網膜疾患、緑内障、後発白内障などのレーザー治療を行っている。

5. 高度先進的な医療の取組

当科で取り組んでいる基礎研究はいずれも臨床への応用を視野に入れたものであり、将来的に先進医療にふさわしい治療法の開発を目指している。

6. 臨床試験・治験の取組

全国の緑内障研究で著名な施設と共同で、開放隅角緑内障に対するチモロール/ブリモニジン配合点眼薬の成績、血管新生緑内障に対するチューブシャント手術の成績などの多施設前向き研究を行なった。緑内障手術成績に関する研究にも取り組んでいる。

7. 地域医療への貢献

眼科領域の基礎・臨床で優れた研究を行っている演者を招いた講演会（熊本眼疾患研究会）を年 4 回、県内の眼科地方会（熊本眼科集談会）を年 1 回開催している。

8. 医療人教育の取組

眼科特有の矯正視力、眼圧測定、眼底検査、視野検査など特殊検査技術の習得や、診療の中心である手術技能習得のために、豚眼を用いた手術実習を月 2～4 回程度、抄読会を月 2 回行っている。

また、日本眼科学会専門医認定制度による、眼科研修プログラム施行施設の認定を得て、眼科専門医取得に向けた形成的学習ができるよう、教育を行っている。前述の眼科医向けの講演会の他に、県内の視能訓練士向けの勉強会を月 1 回火曜日に行っている。

9. 研究活動

当教室員が研究代表者として受けた令和 5 年度文部科学省科学研究費は以下の通りである。研究成果は当科のホームページで随時更新して掲載している。

<http://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/ganka/index.html>

- 1) 基盤研究 C 令和 4-6 年度
「線維柱帯細胞とシュレム管内皮細胞の相互さ作用による房水流出機構の解明」
- 2) 基盤研究 C 令和 5-7 年度
「エキソソーム miRNA による房水循環の制御」
- 3) 基盤研究 C 令和 5-7 年度
「生体イメージングと網羅的解析によるミトコンドリア面からみた緑内障とその治療法探索」
- 4) 基盤研究 C 令和 3-5 年度
「緑内障術後創傷治癒におけるエピゲノム変化とメモリー効果に関する研究」
- 5) 若手研究 令和 3-5 年度
「緑内障術後創傷治癒過程における MCP-1/CCR2 の役割の解明」
- 6) 若手研究 令和 4-6 年度
「網膜色素上皮細胞における上皮間葉-間葉上皮転換についての研究」
- 7) 若手研究 令和 5-7 年
「毛様体無色素上皮細胞の CD44 経路と眼圧制御に関する研究」
- 8) 若手研究 令和 5-6 年
「ウサギを用いた緑内障濾過手術モデルの濾過胞におけるシングルセル解析」